2019 年度さんさん田んぼ活動日記

▼5月4日（金）晴れのち曇り　しろかき

気持ちのいい天気。森の学校組と田んぼファミリー10 人ほど。天野さんの指導で田起こし、子どもたちもなかなか頼もしい。エコトイレの使い方を紹介。各ファミリーの紹介ポスターをロープに張って吊るす。倉さんが耕運機を引っ張って奮闘、さんさん田 2 枚は難なく終わる。お弁当を食べ、キンランやハルリンドウを見たり、カエルやケラを捕まえたり楽しく過ごして 2 時過ぎ解散。夕方、天気急変、雷雨から雹へ。

▼6月1日（土）、2日（日）曇り時々晴れ　くろぬり

倉品先生と学生 3 人が活動。田んぼに水はほとんどなく悲惨な状態。

▼6月8日（土）曇り一時晴れ　田植え（1 回目）

9 時半すぎ田んぼへ行き、田植えの準備。稲束を持って行って注連縄づくり。笹を切ってしめ縄を張って立てる。今年は水と肥料がしっかり入っている天野田をやらせてもらうことにし、倉さんが耕運機を引っ張って田んぼの地ならしに奮闘。光橋ファミリーが 4 人で来て父がえぶりを掛けてくれる。沖崎ファミリーは母と上 2 人の女の子、例によって子供らしく元気。ストーブで火おこし、玄米を焚く。倉さんシェフのポトフが出来、あったかくて好評。1 時過ぎに田植えを始め、田の神様に祝詞を捧げ、東側から縦に植える。結構深くて稲が水没しかかる。三分の一ほどで止め、3 時には解散。

▼6月9日（日）曇りのち雨　田植え（2回目）

おひげは友人の追悼会のため田んぼに行けず。倉さんのリードで残りの田植え。帝京大の学生、森の学校の3家族、くらさわグループなど10数人で賑やかに田植え。雨になる前に無事に植え終わる。全員にふるまった焼きそばも好評だった。

▼6月13日（木）晴れ　田んぼ検分+ジャガイモ掘り

田んぼを検分、一部水没するもしっかり植わっている。佐藤田は水不足でたいへん。さんさんファームのジャガイモ掘り。粒の大きいのを16キロ選び出して「遊びのまちだ展」用にし、小粒（約15キロ）は会員配布用に分ける。

▼6月20日（木）晴れのち曇り　田んぼの補植と菖蒲田づくり

さんさんから持って行った菖蒲を合歓の里の東の山陰の田に植える。田んぼの補植。浩美は畑の草取り。カボチャの覆いを外して延ばし、受粉もしてみる。

▼6月23日（日）曇り小雨ぱらつく　3度目の田植え

前回の田植えができなかった森の学校の母子組4人が来て、斎藤田の田植えの手伝いをする。斎藤氏がエブリで均したところを目印付きの棒を置いて母2人、子2人とのんびり植えていく。相当な深田で動くのがたいへん。半分ぐらい進んでお昼。おにぎりを食べ、古竹を燃やしてお湯を沸かし、持って行ったドリップコーヒーを淹れる。鴨のつがいがやって来て子どもたちが傍へ行っても悠然と田んぼで餌をあさっていた。その後は斎藤、新出氏、母組と田植えを続けて植え終わる。

▼8月19日（月）曇り夜雷雨　田んぼの検分

田んぼの検分。稲は順調、水はほとんどない。池で美しいハスのつぼみを見つけて写真を撮る。

▼8月24日（土）晴れのち曇り夜半に雨　田んぼキャンプ

9 時半小野路に天野さんが来て８つのポリタンクに水を積み込んで合歓の里へ。10 時に田んぼに行き、日よけテント、蚊帳テント、それに何年振りかの円錐テント NORSC を立てて顔合わせ。森の学校 2 家族とさんさん組 10 名ほど。お弁当の後はイナゴ取り。竹筒に袋を付けたイナゴ収納器を使う。ついでカカシ作りに取り組み、竹と藁にファミリーが持って来た古着を着せて 2 体作り田んぼの東西に立てる。次は天野さんが立派に作ってくれたドラム缶風呂を沸かす。子どもたちを入れ、倉さん、おひげも入る。何ともさわやか。夕方からご飯炊き、おかずはレトルトカレー。猛烈に辛いのもあった。暗くなるのを待って花火。ロケット花火に子どもら大興奮。蚊帳テントに布ベッドを並べて子どもらはお休み。ストーブの火を囲んで大人の歓談。12 時ごろ雨が降って来て蚊帳テントに覆いを掛ける。円錐テントで寝るが、寒くて寝つかれず。持って行った服を皆着込み、レインコートまで被るが寒くて震えがくる。夏の夜を甘く見た。

▼8月25日（日）晴れ　田んぼキャンプ２日目

あんまり眠れない夜を何とか凌いで 6 時起き、バーナーでお湯を沸かしてコーヒーを淹れ、母親たちにふるまう。ストーブに火をおこすが薪がなく、ハザ用の乾いた竹を 1 本拝借して燃やし、お湯を沸かしてチキンラーメンの朝食。その後は自由に活動して昼前に帰路に就く。

▼9月22日（日）曇りのち晴れ夕方雨　田んぼ見学+里山ハイキング

秋の田んぼを訪ねて、稲の実りの様子を見たり、合歓の里で自由に遊ぶ一日を設けた。森の学校の子どもたちが参加。倉品さんの指導で焼きそばづくりをして、美味しくいただいた。

▼10月13日（日）快晴　風強し　稲刈り第１日

稲刈りの連絡。台風の後遺症で森組は脱落者続出し１組のみ。10 人ほどで稲刈り。さんさん田を少しだけ刈り、あとはみんなで佐藤田を応援、刈り上げる。

▼10月14日（月・祝）雨　稲刈り第２日

田んぼの服装で 8:15 に出たら、天気予報に反して早くも雨になる。慌てて天野さんと相談し森組へは中止の連絡。倉さんへ規模縮小の連絡。12:15 田んぼ着。仁科さんが指導し、2 家族で少しばかり稲刈り。倉シェフのすいとんが出来上がって雨の中でみんなで美味しくいただく。1 時半に撤収。天野さんの軽トラが帰路、パンクするハプニング。

▼10月20日（日）曇り時々晴れ　稲刈り第３日

最後の稲刈り。森の学校は４ファミリーで総員 14 人、これにさんさん組が加わり 10:20 に開始して 11 時過ぎには刈り上がる。鉄瓶で沸かしたお湯で珈琲とお茶、お菓子。みんなで稲束づくりをしばらくやってお昼。おにぎりを食べ、午後は稲束づくりをずっと続けて稲架にかけて終わる。

▼11月24日（日）雨のち曇り一時晴れ　脱穀ともみすり

朝はまだ小雨。脱穀は 1 時からにしてみんなに連絡。12 時過ぎに車で出てお菓子を仕入れ、天野さん宅へ。5 ファミリー、子ども 10 人でにぎやかに脱穀、大人はサポート。収穫は激減、モミで 33 ㌔、籾摺りしたら 24 ㌔弱と昨年の半分にも行かない。昔なら大飢饉というところ。子どもたちに縄綯いを教え、お菓子を食べて解散。各ファミリーにはヤツガシラのお土産。さんさんへお米を運ぶ。

▼12月8日（日）快晴　さんさん焚き火と芋煮会

日大三高隣りの天野農園で大焚き火を行う。田んぼファミリーはじめ楽農倶楽部多摩のおじさんたちを含め大人 37 人子ども 12 人総計 49 人の参加。まずは枯れ枝集め、畑の真ん中に積み上げて点火、やがて勢いよく燃えて子どもらは大喜び。ストーブで大小の鍋づくり、さらにもう一鍋。熱い芋煮汁をビールとともに美味しくいただく。あちこちで話の輪。子どもらは斜面をダンボールで滑ったりして思い思いに遊ぶ。玉ねぎと牛肉焼きも好評。食べるのが一段落したところで麦踏みの実習。ドラム缶風呂が湧いて楽農倶楽部のおじさんや倉さんが入る。交流プログラムとして動物当てゲームを大人も子どもも参加して楽しむ。最後はメガホン回して感想。2 時半には解散。一日好天気で比較的暖かく、黄葉は美しく、和やかでいい雰囲気だった。

▼2020 年 1 月 12 日（日）曇り時々晴れ 午後一時小雨　さんさん餅つき

さんさん旧園舎に 9 時過ぎにはスタッフ、参加者が次々やって来て、火起こし、湯沸かし、テーブル出し。10 時に開会宣言、餅つきが始まる。ビールで乾杯。お餅はいつもながら美味しい。田んぼファミリーの子どもたちも次々に来て火をおこしたり、お餅を丸めたり、毎度お馴染みの風景。参加者は田んぼファミリー 9 家族をはじめ、さんさん会員、旧スタッフ、卒園生など総勢 70 人ほど。

昼前に秋の造形ワークショップで作った縄文風顔面土器の披露と投票。昼過ぎに子どもたちによる開票。そのだ園長が 8 票集めてトップ、7 票が光橋、新出、サトケンとなり、講師田宮さん制作の金銀銅のネズミの賞品をもらう。最後の臼の仕上げをおひげが搗いて 2 時前にめでたく打ち上げ。みんなで片付け、掃除。3 時過ぎには三々五々解散。

▼2月23日（日）晴れ　合歓の里遊ぼうパン

朝、パン生地を捏ね、9時半に天野さんの迎えでパン生地とともに合歓の里へ。森の学校のファミリーなど20数名参加。まずは熊手で落ち葉を掻いて田んぼに入れ、焚き火の熾きが出来てから「遊ぼうパン」にかかる。ボール一杯に膨らんでいたパン生地をちぎって笹竹の先に巻きつけて遠火であぶって焼く。子どもたちはすぐに理解してそれぞれ上手に焼いていた。笹竹から外すとパンの真ん中に穴が残る。そこに持参のジャムや蜂蜜を入れて美味しくいただく。1時過ぎ流れ解散。

▼3月15日（日）晴れ時々曇り　春のどんど焼き

10 時過ぎ 3 ファミリー9 人がさんさんに集合。一本杉に上がって炭焼き窯を見て尾根から合歓の里へ下る。子どもたちは杉の枯葉を集めながら行き、火を起こして鉄瓶に湯を沸かしコーヒーを淹れる。お弁当の後、燃え残りの丸太を土台に枯れ枝を井桁に組んで焚き火。燃え上がったところに生木を載せるとよく燃える。4,5,6,7,9 歳の 5 人は仲良く自在に遊び、火を焚き、オタマジャクシを追い、田んぼにはまって大騒ぎ。2 時半過ぎ解散。

▼１年を終わって　　おひげ

春の田起こしに始まり、6 月の田植えから 10 月の稲刈りに至るプロセスは、いつもの通りだったが、今年は異常な年になった。7 月の終わりのないような長雨、これで稲の花がだいぶ落ちてしまったのだろう、8 月の猛暑で稲の本体はすくすく育ったものの、実りは呆れるほど少なかった。昨年の半分に届かない大減収。いつもは「働きに応じて」配分するはずの収穫米を皆さんにお渡しすることが出来ず、1 月の餅つきが精いっぱいだった。せっかく額に汗して田んぼと格闘してくれた大人たち子どもたちに申し訳ない思いである。

それでも田んぼライフは楽しかった。今年のビッグニュースは天野オーナーが手を尽くして準備してくださった「ドラム缶風呂」の登場である。20 ㍑のポリタンクで何度も水を運ぶのはたいへんだが、ドラム缶の下でしばらく火を燃やせば快適なお風呂が楽しめる。子どもたちなら一度に 2、3 人は入れる。おひげも入れてもらったが思わず鼻歌が出そうな気分だった。トイレと風呂が完備して里山キャンプの快適度は一気に上がったと言えよう。

今年も「森の学校」に加えて、東京や町田の田んぼファミリーも増え、「里山耕房くらさわ」の若い人たち、帝京大倉品クラスの学生たちも例年のように参加してくれた。「楽農倶楽部多摩」のお爺さんたちもやってきた。幼児から高齢者まで、世代を超えて協力し合う「生涯楽習」の田んぼである。それを支えているのは、雨の日も風の日も田んぼを見守って世話を怠らない天野夫妻の力である。天野さんありがとう。今年もがんばろう！

****

NPO さんさんくらぶ　〒195-0064　町田市小野路町 5336-7
Tel　090-4703-8878　　e-mail：s.sonoda@nifty.com